

口絵解説

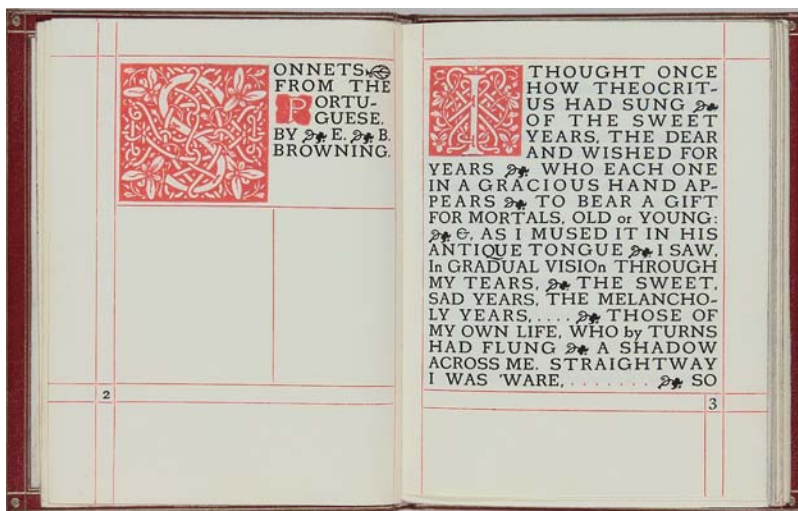
館蔵資料紹介 19世紀イギリスの私家版印刷工房刊本

1. Chaucer, Geoffrey, *The works of Geoffrey Chaucer*.
Hammersmith: Kelmscott Press, 1896. [F930.24-72]
2. Morris, William, *A note by William Morris on his aims in founding the Kelmscott Press: together with a short description of the press by S. C. Cockerell*.
Hammersmith: Kelmscott Press, 1898. [F749-168]
3. Browning, Elizabeth Barrett, *Sonnets from the Portuguese*.
London: Hacon & Ricketts (Vale Press), 1897. [F931-2407]
4. Gray, John, *Spiritual poems, chiefly done out of several languages*.
London: Hacon & Ricketts (Vale Press), 1896. [F931-2402]

産業革命による発展が円熟期を迎える19世紀ヴィクトリア女王時代のイギリスにおいて、伝統の印刷術にもまた大きな変革があった。近代的な技術の導入により大量の印刷や運搬が可能となり、識字率の高まりも相俟って多様な出版物が世に送り出されていったが、そのことは一方で、粗悪な紙や読みにくい活字、配慮を欠いた版面の本を生み出すことにもなった。作家・装飾デザイナーとして活躍し、社会運動家でもあったウィリアム・モリス（1834-1896）は、そうした、いわば粗製濫造にも見える印刷のあり方に対抗して、中世の写本や15世紀の初期印刷を理想とし、私家版印刷工房ケルムスコット・プレスを設立して美しい良質の本を印刷することに情熱を注いだ。モリスの活動に刺激を受けた人々もまた、それぞれ特色ある印刷工房を設立し、美しい印刷本を世に送り出した。口絵にあげた4点はいずれも、そうした私家版印刷工房の出版物である。

ケルムスコット・プレスの刊本全53点のうち、『ジェフリー・チョーサー作品集』（口絵1）はその美しさで最も名高い。また、『ケルムスコット・プレス設立趣意書』（口絵2）にはモリスの意図が簡潔明瞭に述べられており、モリスの秘書シドニー・コッカレルによるプレス小史と全刊本リストを付す。この2点はいずれも2004年に元本学教授大竹正次氏より寄贈されたものである。

チャールズ・リケッツ（1866-1931）によって設立されたヴェイル・プレスの刊本『ポルトガル人からのソネット』（口絵3）は6冊印刷されたヴェラム版の1冊。リケッツのデザインによる革装の表紙には、旧蔵者ローレンス・ホドソン（1863-1933）の頭文字「L. H.」が箔押しされている。『霊的詩集』（口絵4）の神秘的な扉絵や装飾もリケッツによるもの。これら2点は、2013年に新規に購入した。



3 E・B・ブラウニング『ポルトガル人からのソネット』 ヴェイル・プレス 1897



4 ジョン・グレイ『霊的詩集』 ヴェイル・プレス 1896